赤磐に県自閉症児を育てる会

コミュニケーション能力の向上など自閉症児の教育・生活支援に取り組む県自閉症児を育てる会（鳥羽美千子代表）は2日、小学4年生までを対象にしたデイサービスセンター「ぐんぐんキッズ」を赤磐市内にオープンした。同市には幼児から小学2年生までが対象のセンターを既設。「子どもに落ち着きが出てきた」などの効果があったが、3年生以降、元の状態に戻るケースが少なくないため両センターで継続的に支援するのが狙い。2日は世界自閉症啓発デー。

小学4年生まで対象
継続支援へデイセンター
低学年施設と連携

ぐんぐんキッズ内の勉強部屋。蛍光灯のちらつきが気になる子もいるため、照明には布がかぶせてある

新たなセンターは赤磐市立川に立地。自己資金約1500万円をつぎ込んで木造平屋の民家（約100平方㍍）を購入、改修した。2005年には、西に約2・5㌔離れた同市和田に3歳から2年生向けの「赤磐ぐんぐん」を開設。約40人が利用している。「落ち着いて物事に取り組めるようになった」「生活にリズムが出た」などと好評だが、手狭なうえ待機者が多く、3年生以降は対応できていなかった。鳥羽代表は「継続支援を求める声が強く、思い切って開設を決めた」と言う。

勉強部屋や1人になれるリラックスルーム、パソコンやDVDが楽しめるメディアルームなどを設置。数人いるスタッフが1対1で対応する。現在30人の児童が登録。週に1度、放課後に訪れ2時間程度、「遊びの仲間に入れてほしい」「手伝ってほしい」など同級生らとのコミュニケーションの取り方、集団生活でのルールやトラブル対処法などを学ぶ。

オープンに先立ち、1日に行われた開所式には地域住民や利用者、その保護者ら約40人が出席。式後には、施設内を見学した。

自身も自閉症の子どもを育てた鳥羽代表は「子どもと親が手を携え、一歩一歩前進できる施設にしたい」と話している。施設運営に当たって寄付金を募っている。問い合わせは事務局（086―955―6758）。

（竹久祐樹）

自閉症理解呼び掛け
親の会連携協 3ヵ所でちらし配布

家族連れらにちらしを配り、自閉症への理解を呼び掛ける支援者＝JR岡山駅

県発達障害児・者の親の会連携協議会は2日、JR岡山駅、倉敷駅とイオン津山店（津山市川辺）の3カ所でちらしを配り、自閉症などへの理解を呼び掛けた。

連携協議会は家族や支援者らによる県内13団体で構成。岡山駅では23人が参加した。ちらしには「自閉症は他人の気持ちや感情を理解することが苦手」「会話の際は抽象的な表現を避け、写真や絵を使って意思疎通を」などと記しており、駅を利用する人々らに手渡した。

構成団体の一つ県自閉症協会の森石雅子事務局長は「理解が得られず孤立してしまうケースが少なくない。地域で正しい知識を共有し、支えてあげてほしい」と話していた。

（山本友志）

取材メモ
家庭でのケアの支えに

▽…「もう少し支援を続けてもらえれば」「デイサービスから離れて元通りになってしまった」…。県自閉症児を育てる会が「ぐんぐんキッズ」の開所に踏み切ったのは、保護者のこうした声が多数寄せられたためだ。

▼…育てる会によると、自閉症児は一度失敗すると混乱してしまい、以前できていたことができなくなってしまうことがある。とは言っても施設には限界があり、いつまでも支援は続けられない。このため「親が一番の支援者にならなければ」と、家庭でのケアの大切さを訴える。

▽…ぐんぐんキッズでは保護者を対象に講座を月1回開催予定。生活にリズムをもたらすため、食事や宿題の時間などのスケジュール管理をアドバイスしたり、専門家を呼んで自宅でできる支援法を解説するという。自閉症児と保護者、双方の成長を願う取り組みに、周囲の期待が懸かっている。

（竹久祐樹）